

作目名	キャベツ
-----	------

作型名	冬春どり（平坦地）
-----	-----------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
秋まき 春どり							■									○						△						秋蒔極早生2号									
										■									○						△						中早生3号						
	△									■									○									中生SE									

○ は種 △定植 ■ 収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

岐阜、西濃、中濃

(2) 立地条件

①気象条件

春期比較的温暖な地帯

②ほ場条件

土質に対する適応範囲は広く、有機質を十分に補給すれば砂質地から粘質地までよく生育する。土壌pHは6.0~6.8で最も良く生育し、pH5.0以下になると収量が落ち、根こぶ病が発生しやすくなる。

③栽植株数（10a当たり）

3400本

(3) 目標収量（10a当たり）

4000kg

○施肥基準

(1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量		苗床	基肥	追肥				
					1	2	3	4	5
窒素	化学肥料由来	21.1	0.3	11.2	4.8	4.8			
	有機質肥料由来	10.0		10.0					
りん酸	18.0		0.6	17.4					
加里	21.6		0.4	11.6	4.8	4.8			

※苗床への施肥量は本ほ10アール分の苗を確保するための苗床50㎡に対する施用量

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 育苗床に前作の肥料分が残っているようなら無肥料とする。
- 3 苦土石灰は土壌分析結果を参考に施用量を決定する。
- 4 前作の生育状態をみて施肥量を加減する。

作型名	夏秋どり（高冷地）
-----	-----------

月 旬	3			4			5			6			7			8			9			10			主要品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
500～ 800m	○				△							■													秋徳
							○				△				■										おきな
800～ 1300m							○				△				■										秋徳
							○				△				■										おきな

○ は種 △ 定植 ■ 収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

飛騨、中濃、東濃（標高500～1,300m）

(2) 立地条件

① 気象条件

夏季冷涼で、時々降雨により土壌水分が確保できる地域が適している。

② ほ場条件

土壌適応性は広いが、有機質に富むほ場が良い。乾燥すると生育が低下しやすい。土壌pHは6.0～6.8が適している。酸性土壌では根こぶ病の発生が多くなる。さらに、過湿条件が加わると根くち病、根腐病が発生しやすい。

③ 栽植株数（10a当たり）

5,100株

④ 目標収量（10a当たり）

6.0t

○施肥基準

(1) 施肥基準量

施肥成分	本ほ (10 a 当たり成分量・kg)					育苗ほ (100㎡当たり・kg)	
	総量	基肥	追肥			総量	基肥
			1	2	3		
窒素	25	16	4.5	4.5		1.5	1.5
りん酸	23	23				2.0	2.0
加里	25	16	4.5	4.5		1.5	1.5

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、土壤調査結果に基づき土壤改良を行う。
- 2 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 3 開墾地及びやせ地の場合は追肥を3回とし、施肥量を10～20%増す。